



# 10月15日「世界手洗いの日」から始まる取り組み

大阪府高槻市立清水小学校  
教諭 奥野 加枝子

2009年は、新型インフルエンザの世界的な流行から、国内そして大阪での感染となってしまいました。本校でも大阪府としての学校閉鎖のほか、学年閉鎖、学級閉鎖と春から秋にかけて新型インフルエンザ対応が続きました。

2008年、世界中の誰もが健康で衛生的な生活ができるように、石けんを使った手洗いの習慣をすすめるためユニセフが中心となって、10月15日を「世界手洗いの日」と決めました。それを受け、本校でも2009年10月15日「世界手洗いの日」のイベントに取り組むことになりました。

10月15日「世界手洗いの日」をむかえる前に、お昼の放送では給食前にテレビで「世界手洗いダンス」を流し、教室で見給食前の手洗いができるようにしました。

イベント当日はボランティアゲストとしてタレントのルー大柴さんが、お昼前に学校へ到着。4年生の教室でにぎやかに一緒に給食を食べていただきました。そして午後からは、学年閉鎖の5年生を除き、1年生から6年生までが体育館に集合しました。ルー大柴さんを中心に6年生の保健委員会のメンバーがステージに。フロアでは全員が一緒になって

「世界手洗いダンス」を楽しく踊りました。6年生はこの後、実際にダンスのとおりの手洗いもやってみて、手洗いの必要性を実感しました。

6年生の児童の取り組みでは、日本ユニセフ協会大阪支部の方々の出前授業、アフリカのマリ共和国のユニセフ・マリ事務所から来日された水と衛生の担当官トゴタ・ソゴバさんの水の話や井戸作りの話などから、環境問題や世界の子どもたちをめぐる問題について、さらに深く調べたり考えたりするきっかけとなっていました。

## 児童の感想より

(前省略)ユニセフの学習から分かったことは、世界の子どもたちが苦しい暮らしをしているということです。「マリ」という国では、きたない水を飲んで下痢をする子どもたちが多く、ORS(経口補水塩)を飲んで命を守ることができるということが分かりました。(後省略)



©日本ユニセフ協会/2009



©日本ユニセフ協会/2009



©高槻市立清水小学校  
マリ共和国から来たトゴタさん

## 世界手洗いの日

手をあらおう。手をつなごう。

10/15 世界手洗いの日

unicef

今年も「世界手洗いの日」プロジェクトを実施します。  
公式サイト<http://www.handwashing.jp/>を是非ご覧下さい。

ユニセフをはじめ、水と衛生問題に取り組む国際機関や大学、企業等は、せっけんを使った手洗いを広めるために、国際衛生年であった2008年、10月15日を「世界手洗いの日」に決めました。昨年、(財)日本ユニセフ協会は、「手をあらおう。手をつなごう。」の合言葉のもと、「世界手洗いの日」プロジェクトを実施しました。日本の子どもたちに開発途上国の衛生問題に目を向けてもらい、正しい手洗いの習慣を楽しく身につけられるように「世界手洗いダンス」やポスター、リーフレットなど制作し、このようなツールを活用して学校や家庭のみなさんに「世界手洗いの日」へ参加していただけるよう広く呼びかけました。高槻市立清水小学校の取り組みもそのひとつです。